

91歳母にささげる扱捉の歌

人気じわりCD化へ

【中標津】老いた母にも町在住の作曲家牧野昭一さん(73)が作詞した歌「扱捉」を踏ませたい。そんな願いが、道民の共感を集め、今を込め、根室管内中標津 月下旬にCD化され、六月

中標津の 牧野さんが作詞
作曲家



「じわじわと全国に曲が広がればうれしい」と話す牧野さん(右)と阿部さん

「古里見せたい」思い織り込む

には大手カラオケ配信業者のメニューにも載るようになった。十四日の「母の日」を前に、牧野さんは「母の歌がじわりじわりと全国に広がったらうれしい」と話している。

「赤いグラス」の作曲で知られる牧野さんの母、巴さん(91)は五歳から八歳まで扱捉島内保で育った。今は札幌市清田区内で暮らしている。母への思いを歌にしようと牧野さんが考えた時、脳裏によみがえったのは、幼いころ母から聞かされた扱捉の話だった。

晴れた月には遠く国後島の爺々岳が近くに見えたきれいな光景、冬でもコマイ漁が大漁で精気に満ちていた集落…。そんな島を母にもう一度見せてやりたいという気持ちを放り込み、一九九六年に作詞。メロディ

は牧野さんのまな弟子で、「浪花恋しぐれ」の作曲家岡千秋さんがつけた。北方四島元島民の望郷の思いにも通じるこの歌を、

牧野さんは道内各地の講演会などで自ら歌った。同町でカラオケ教室を開く、歌唱歴二十年の阿部俊勝さん(55)に歌ってもらったテープも披露した。

そのうち、牧野さん宅には「CDはないのか」という問い合わせの電話が道内各地から寄せられるようになり、今年三月、CD自主制作を決めた。同じころ、カラオケ配信大手の「第一興商」の系列会社・釧路第一興商道東営業所(中標津町)にテープを紹介したところ、採用が決まった。

CDは千枚制作。千五百円で、企画・制作した小樽市のカントリージェントルマン社や中標津町内などで発売の予定。問い合わせは同社 0134・51・2581へ。